

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	宮城 エステバン
最終学歴	学 位	専門分野
筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻修了	国際経営修士 (専門職)	国際経営

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画

【理念】

企業が求められる IT スキルを教えることにより、適切な励ましと指導のもと、学生は最大限の学術的可能性を発揮することができます。

【目標】

学生に、理論とビジネスのニーズのバランスの取れた教育を提供するとともに、一生涯にわたる学びのための人格形成を促すこと。

【方針】

ラーニングアナリティクス(学習分析)に基づく教育を実施し、学習、教育、教育管理を改善します。

【計画（方法）】

- IT スキルの強化
- 実際の事例を紹介
- 生涯学習の姿勢を奨励する
- ハンズオン・ラーニング
- Dashboard の開発と利用
- 学生へのリアルタイムのフィードバック
- LMS と AI ツールとの連携

【担当科目】

(前期)

AI リテラシー、デジタルリテラシー、ラテンアメリカ研究、現代企業論、専門演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ

(後期)

インターネット社会論、データサイエンス入門、専門演習Ⅱ、組織コミュニケーション、総合演習Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ

○教育方法の実践

繰り返し実践し、振り返ることで教育効果が向上しました。また、実際の IT での体験により、その効果をさらに高めることができました。最新の IT トレンドを取り入れることで、学生の興味と関心を引くことができました。

○作成した教科書・教材
プレゼン資料

○自己評価

大学は基本的な IT インフラしか持たず、IT 関連のアクティブ・ラーニングを取り入れる予算も限られています。そのため、パワーポイントと小さな IT ツールのデモのみを使用した学習には限界があります。これらの制約の中で、私は教育資料を改善し、より良い教育を提供できるよう努めます。

II 研究活動

○研究課題

最も必要としている人々の教育を向上させるために IT ツールの利用を研究致します。

○目標・計画

【目標】

ラーニングアナリティクス(学習分析)に基づく教育を実施し、学習、教育、教育管理を改善する。

【計画】

DX データの整理した後、分析を開始

1. 学生と学習データの整理
2. LMS と分析システムの連携
3. 分析・AI モデルのテスト

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

（学術論文）

（学会発表）

（特許）

（その他）

ありません

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

公益財団法人 大川情報通信基金 2022 年度助成対象者. 2023 年 12 月に研究完了

[研究テーマ]

不登校の在日移民児童の社会への早期統合を目的とした学習管理システム活用の可能性に関する研究

○所属学会

会員

ISACA（情報通信技術専門家の国際的団体）東京支部会員

ISC2（サイバーセキュリティ国際的非営利団体）会員

退会

一般社団法人 エビデンス駆動型教育研究協議会

Society for Learning Analytics Research (SoLAR)

在日米国商工会議所（ACCJ）中部支部

日本外国特派員協会

○自己評価

数会の会費は自己負担で支払っており、他の会費・研究に割り当てられる予算も少なかったため、DX 分析の研究に予算の大部分を集中させるため、いくつかの会員を退会しました。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

大学での DX プロジェクトを推進する

【目標】

データとリアルタイム分析なしには良い決定はできません。私の目標は、教育分析および大学の全体的な改善のためにデータを整備することです。

【計画】

- データクリーニング
- データライクの作成
- ダッシュボードの開発

○学内委員等

DX 推進室のメンバー

○自己評価

DX アナリティクスのデータクレンジングプロジェクトの第一段階が実施され、私は IT ワークフロー、設計、テストを担当しました。データのクレンジングとデータスキーマの作成の難しさから、いくつかの遅延が発生しました。データと AI モデルの予備テストが行われました。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

最も困窮している人々の未来を改善するために、彼らがふさわしい教育を達成できるよう支援すること。平等な社会を維持するために、報道の自由を守ること。

【計画】

学習分析、AI に関する研究を続ける。FCCJ でボランティアを続ける。

○学会活動等

一般社団法人エビデンス駆動型教育研究協議会と Society for Learning Analytics Research (SoLAR) を退会したため、両機関での活動が終了しました。

○地域連携・社会貢献等

FCCJ と ACCJ を退会したため、両機関でのボランティア活動（FCCJ での報道の自由、ACCJ での地元の慈善活動）が終了しました。

○自己評価

資金と時間には常に制約があるため、来年度の社会・研究活動の重点を一つに絞ることにいたします。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

日本、フランス、イギリス、アメリカ、台湾、中国、マレーシア、シンガポール、韓国、オーストラリア、カナダの各セクターにおける複数の大企業と関わる機会があり、IT 以外に、M&A ビジネスについて多くを学びました。

VI 総括

教えることに加えて、昨年の主な焦点は、DX アナリティクスの初期段階の実施と、公益財団法人大川情報通信基金の助成金の下での研究でした。これらの取り組みを実行するために、かなりの個人的な時間と自己負担のリソースが費やされました。両方のプロジェクトが終了したので、同様の規模のプロジェクトに取り組む際に、得た教訓を活用していきたいと思います。

以 上